

JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association



海外宣教連絡協力会

広報 No.60号

見よ。わたしは新しい事をする。

JOMA 役員 関 昌宏
(チャーチ・オブ・ゴッド国外宣教部)

1. 救いの神

イザヤ43章に私たちを救いに導く偉大なお方のメッセージがあります。この箇所背景としてユダ王国を滅ぼして、有力な人たちを捕囚してしまう恐るべきバビロンの存在があります。14節の表現：「あなたがたのために、わたしはバビロンに使いを送り、彼らの横木をみな突き落とし、カルデヤ人を喜び歌っている船から突き落とす。」は今日の私たちが読むと大変物騒な感じですが、当時のユダヤ人にしてみれば強国の圧迫という絶望的な状況にあって、私たちを救う神からの希望のメッセージでした。16-17節：「海の中に道を、激しく流れる水の中に通り道を設け、戦車と馬、強力な軍勢を連れ出した主」はかつて経験した出エジプトの出来事です。エジプトの奴隷から解放してくださった主は、これから再びバビロンの手からも解き放ってくださるといふのです。

2. 新しい事をされる神

ところが「先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。」(18節)と続きます。なぜでしょうか？出エジプトほどのすばらしい民族的救い、そこになされた神の御業を思い起こすことこそ将来への希望と確信へと繋がるのではないのでしょうか？しかしみことばは「思い出すな。」「考えるな。」でした。神は昔された事よりもさらに大きな事をなさろうとしておられるからです。かつて与えられた恵みを思い返して神に感謝をささげつつ歩む人生は幸いです。しかしそこに留まることなく、今の状況を信仰をもって受け止め、偉大なお方を見上げる事へと繋がる事が大切です。そこで「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。」(19節)と主は言われました。チャーチ・オブ・ゴッドの国外宣教は1981年からメキシコで始められました。当初田舎からスタートした働きは、メキシコ第二の都市：グアダハラハラへと導かれ、宣教を共に担う宣教師も加えられて、ACEクリスチャンスクールの設立へと

進んでいきました。この働きは大きな祝福をいただき、現在ではメキシコ全体のクリスチャンスクールにおけるリーダーとして、また南米の



他の国や遠くアフリカのクリスチャンスクールを支援するまでに成長が許されました。さらに驚くべきことに、数年前から日本でもACEの働きが始まると、何とメキシコにお送りした宣教師が、母国日本のクリスチャンスクール建て上げのためにも用いられるようになったのです。まったく念頭のない導きでした。主がなさろうとしておられる御業のスケールの大きさにただただ圧倒されています。

3. 主の栄光と御国の前進のために

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」このように言われるお方を今新たに見上げようではありませんか！主は荒野に道を、荒地に川を設けて、いのちの水を飲ませてくださるお方です。砂漠に投げ出されたら死んでしまいます。そんな絶望状況にあっても、私たちを生かしてくださる！それこそ主が今なさろうとしておられることなのです。そしてこのすばらしい主の働きは主の栄光と御国の前進、さらなる宣教へと繋がっていきます。(21節)今年も日本と世界、また私たち宣教団体においてさえ、様々な問題に取り囲まれることでしょう。しかしどんな問題も乗り越えられないものではありません。「見よ。わたしは新しい事をする。」主の栄光と御国の前進を夢見ながら、こう言われるお方を見上げて進んでいきましょう。

世界の地域特集 4 アフリカ

ケニア・レポート

インマヌエル総合伝道団国外宣教部

ケニアは東アフリカの国で、人口は約 3,430 万人です。スワヒリ語、英語などが主要言語として使われています。首都はナイロビで、ケニアと言えば、草原に住むライオン、キリンなどの動物を思い起こされる方が多いでしょう。動物自然保護地域も設けられ、多くの野生生物が保護されています。東海岸は海拔 0 メートルの地域では熱帯の気候ですが、中部の地域は 1500 メートルほどの標高があり、温暖な気候です。宗教的には、プロテスタントが 40%、ローマ・カトリックが 30% と言われ、アフリカの中では、クリスチアンの割合が高い国であると言われていいます。昨年 2007 年 12 月に大統領選挙が行われ、キバキ大統領派と反大統領派の対立が激しくなり、多くの死者を出したのがマスコミで報道されたことをご記憶の方もありましょう。ケニア国内における民族的な違いと対立が浮き彫りになったと言えます。地域によっては、渡航の自粛を呼びかける危険情報が外務省から出されました。

インマヌエル総合伝道団の、ケニアにおける宣教活動は、1970 年にさかのぼります。インドへのビザを拒否された田中敬康、泰子（故人）宣教師がケニアのハイランド神学校で奉仕を開始しました。世界福音宣教団（World Gospel Mission）の傘下、アフリカ福音教会（Africa Gospel Church）が始められ、ケリチョ福音教会の基礎を築くのに大きく貢献しました。その後、



カボソン牧師学校

1979 年、竿代照夫、皓子宣教師が派遣され、ナクル湖畔教会の開拓に当たり、教会は大きく成長しました。その後、その働きを現地の働き人に委ね、教区長的な立場にあたりつつ、エンガ



シユラ教会の建設に当たり、1994 年献堂式が持たれました。

一方、インマヌエル総合伝道団は、1988 年現地の要請により、三上喜恵子姉を、続いて、1989 年に富沢香姉を世界福音宣教団（World Gospel Mission）の傘下のテヌエック病院に医療宣教師として派遣しました。医療を通して、WGM の宣教師方と協力をしつつ、現地の方々に福音の証しがなされ続けたことです。

その後、カボソン牧師学校に田辺寿雄、宣恵宣教師が派遣され、校長として現地の牧師の要請に当たりました。現地教会の要請を受け、各地の教会に招かれては、奉仕を果しました。現在（2008 年 3 月現在）、田辺宣教師は、アメリカのデンバー・セミナリーで学びつつ、今後の働きのために備えています。今年には、再び家族と共に、カボソン牧師学校の働きを継続すべく、ケニアへの再赴任を予定しています。

蔦田就子宣教師は、テヌエック病院に派遣され、看護婦として、富沢香宣教師とともに、奉仕をしながら、宣教活動に当たりました。その後、富沢香宣教師は、テヌエック病院を離れ、ケニア



ケニアの信仰者たち



の7つの地域にクリニックの開設を目指して、現地の牧師方と協力しながら、地道な奉仕を続けています。

昨年も、若い方々を中心にケニア宣教訪問団が派遣され、良い証しを立てて帰国しました。その様子が映像の形で、全国の教会に届けられ、宣教に強調を置いた宣教礼拝や宣教集会が各地の教会で行われたことです。宣教地における福音の働きは、国内の教会にとっても、大きなチャレンジとなります。今後も、宣教師方が現地の人々を愛し、良い模範をもって、現地教会の発展のために地道な働きを継続することが期待されています。

事務・会計担当者交わり会 報告

日本から宣教師を派遣している諸団体の事務や会計の実務担当者たちが、交わり、情報交換ができる機会を持つための会合を12月4日に千葉県市川市のOMFインターナショナル日本委員会オフィスを会場にお借りして開催しました。当日は5団体から7名が参加し、礼拝、分かち合い、互いの情報交換がなされました。

トピックとなった項目は、保険、宣教師の帰国後の面談、帰国時の費用、スタッフの給与システム、志願者の面接、危機管理、スタッフリトリート、スタッフ評価など。JOMAでは今後もこのような集まりを企画し、項目別に掘り下げた内容の学びの機会を提供していきたいと願っています。

～参加者の声～

海外宣教団体の会計実務者の交わり会が12月4日にある、との連絡を受けましたが、この日は午後にはスカイプ会議を控えており、欠席の意向をお伝えしました。しかし、その後、他のスタッフの勧めもあり、浦和から意外に近い事が分かり出席することにしました。OMFの事務所の前に立ってみて、以前に読

インマヌエル総合伝道団は、ケニア・フィールドで教会建設、神学教育、医療宣教という分野で奉仕を続けてくることが許されました。様々な困難を乗り越えて、真実な働きが継続され、世界福音宣教団との緊密な協力関係のもと、現地のキリストの体である教会が形成されつつありますことを覚え、主を賛美しています。ケニアにおける働きが東アフリカの諸国に拡大していくことができるようにヴィジョンをもって働きが継続されます。

祈りの課題としては、以下のようなことです。

1. 政治的な安定、治安が回復しますように。
 2. 現地の教会、米国の宣教師方と良い協力関係をもって、奉仕を継続できるように。
 3. 主キリストの模範にならい、よき模範を現地の人々に示し続けることができますように。
- どうぞ、お祈りとご支援を宜しくお願いいたします。

JOMA通信では特集を組み、世界各地における宣教の状況と必要を順次お伝えしています。次回は西アジア地域を取り上げる予定です。事務局から原稿依頼をさせていただく他、各加盟団体からの記事を募集しております。西アジア地域における宣教情報をお持ちでしたら、ぜひ事務局までお寄せ下さい。



んだ証し「一人ひとりの死によって献げられた地」はここだったのかと、改めて主のなさることの奇しさを思いました。

交わり会は、実務担当者が4人、先生方が3人でしたが、主にある奉仕者、特に同じ会計担当者ということで、親近感を持つことが出来、それぞれの状況が分かり、とてもリラックスできて、楽しく有意義なひと時でした。今後もこのような場が設けられ、お交わりや情報交換ができたならお互いの励みになり、事務の改善にも繋がるのではないのでしょうか。

アンテオケ宣教会 会計担当者 浜崎国子

良い情報交換の場となり、オフィス運営や海外へ派遣している宣教師のケア等についても参考になりました。事務局の働きは後方部隊のようなものと例えられました。最前線で働く宣教師と送り出す側の私達の働きは違っても同じチームの一員だということです。良いチームワークをもって与えられた役割を忠実に行ない、神の栄光が現わされることを願います。

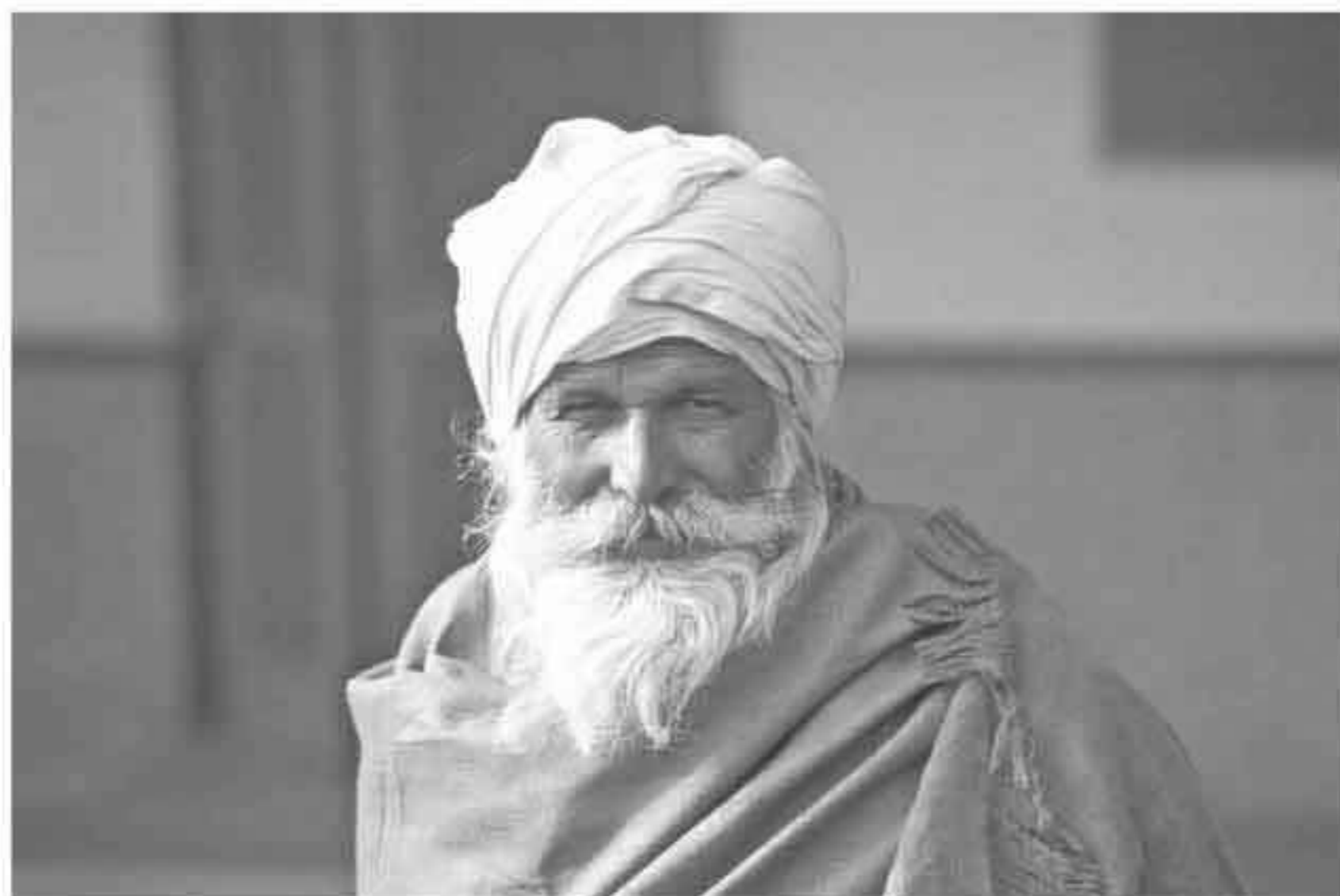
OM日本 事務担当 大庭恵里

「One Story と Orality に見られる新しい視点と協力」

福田 崇 (日本ウイクリフ聖書翻訳協会)

アムステルダム2000会議が開催され、その分科会の時に、色々なテーブルに分かれて交わりや討議の時間が持たれました。その中で、テーブルの番号が71というところは、大きな宣教団体の責任者が集まる場所でした。それまで同席したことがなかったリーダーたちは、心を開いてそれぞれの課題について話し合いました。彼らはその後も自分たちのグループを「テーブル71」と名付けて、年に2度交わりのために集まっています。IMB（南部バプテストの国外宣教組織、教派宣教団としては最大、大きな団体であるので以前は他との協力の必要がなかった）、YWAM（ユース・ウイズ・ア・ミッション、若者に大きなインパクトのある団体、ペンテコステ的な傾向）、CCC（キャンパス・クルセード、これも大きな宣教団体で、四つの法則がきわめて重要であった）、国際ウイクリフ（聖書を文書の形で提供する働きをしてきた）などが中核で、これらの団体が協力すること自体が奇跡に近かったのです。

その中で具体的なこととして出てきたことは、文書を用いないか、あるいは用いられないので口頭で情報を処理する人々への宣教の課題でした。One Storyは、これらの団体が協力し、共通の訓練を提供し、入口（どの団体に派遣されるか）は別でも、訓練・フィールドでの働きは、団体を越えたチームを編成します。またフィールドでの責任は、そのフィールドにある団体が果たします。こうして若い人々への新しい道筋が開けました。この背景には、団体のためというより神の国建設のために働きたいと言う、若い人々の熱い思いがあります。今まででしたら、ある団体が今まで働きのなかったところへ働き人を派遣するには、その地域に新しく事務所を開設し、インフラストラクチャーを整備する必



要がありました。この新しい方式では、協力関係で事が進みます。One Storyは、若い人々を二年間派遣するプログラムです。二年間のうちに、派遣される地域の共通語を学び、その言語で聖書の重要な物語を数十覚えて、語っていく働きです。ことに他の宗教が優勢な地域では、聖書を手にせず、文書を配布せずに、イエス様のことを伝えるので、何かをやっているとは目立たない有効な方策です。



テーブル71から出てきたもう一つの運動がION（International Orality Network）です。Oral Learner（口頭で情報を処理する人々）は、文字のない部族社会の人々ばかりでなく、識字がゆきわたっている先進諸国でも存在します。世界の人口の半分以上が口頭で情報を処理する人々と言われていています。この運動は、今では一つの流れになってきています。「今まであまりに文書に頼りすぎていなかったか？文章を読めたり、書けたりする人だけが牧師や団体の指導者となっていないか？口頭で情報を処理する人を軽く見ていなかったか？伝道や弟子訓練なども、文書に偏っていなかったか？デボーションも、聖書を読み、理解することに偏っていなかったか？」などの反省に立って、どのようにしたらこれらの人々（口頭で情報を処理する人々）に福音を届け、弟子訓練を提供できるのかが真剣に討議されています。

賛美歌集もOHPもパワーポイントもなしで、すなわち何も見ないで、賛美を続けるコスタリカの教会の礼拝に出たときに、私は新鮮なものを感じました。また、覚えている賛美をどんなところでも、牢屋でも、歩きながらでも賛美する人々もいます。テゼーの賛美はそのような賛美に適しています。初代教会の聖書がない時代、あるいは中国の家の教会のように、各人に聖書が行き渡っていない状況の中では、聖書のストーリーを毎日、にれかんでいるのではないのでしょうか。このことは、黙想の伝統とも関連があるようです。Oralityについては、次のサイトが参考になります。 www.oralbible.com



加盟団体の声

近況、アピールなど150字程度で何でもお寄せ下さい。原稿締め切りは毎回事務局よりメールでお知らせします。

OMF インターナショナル日本委員会

OMF 日本委員会の総主事代行の任に当たっていた横山基生は3月末で辞任し、菅家庄一郎（カンボジアで長く宣教活動していた）が、4月から総主事の任に就きます。9月26日（金）の夕に、OMF インターナショナル総裁のパトリック・フン師を講師として「宣教の夕べ」を企画しています。パトリック師は、OMF 総裁としては最初のアジア人で、香港人です。中国における宣教に関わって講演をしてもらう予定です。また、この集いの中で、新総主事の就任式を持ちます。

OM 日本

これまでOM日本はもっぱら日本から海外への宣教師派遣業務を行なってきましたが、この1月から海外から日本への宣教師受入れを開始しました。OMは50年間の歴史の中でイスラム圏、南アジア、ヨーロッパを主たる宣教地としてきましたが、近年は中国をはじめ東アジア諸国で働きが急成長しています。日本では宣教師の少ない地方での働きを進めていく予定です。

南米宣教会

ブラジルへ聖書発送

ブラジル移民100年を記念する今年の1月25日に、

ブラジルに向けて新改訳聖書500冊が発送されました。昨年帰国中の三浦春寿宣教師が日本聖書刊行会にお願いした「ブラジル日系人に、聖書を届けたい」という願いが答えられたのです。送料も祈りの内に与えられました。無事に必要な方々に届けられますようにお祈り下さい。

日本ウィクリフ聖書翻訳協会

日本ウィクリフ聖書翻訳協会のために、いつもお祈りありがとうございます。3月には、日本聖書協会と共催の翻訳ワークショップ（3/12-13）と、フィリピン体験旅行2008（3/17-31）を実施します。また、去年に引き続き、今年も異文化宣教セミナーを行います。音声学、音韻論、文法分析、言語習得、異文化コミュニケーション等、異文化の中で役立つ知識をちょっとかじりながら、ウィクリフの働きについて、また実際に宣教地で奉仕している宣教師の生の話を聞くことができます。日程等は以下の通りです。

<西日本> 8月12日（火）-14日（木）：入門コース
<東日本> 8月31日（日）-9月8日（月）：入門コース+実践コース

どちらも定員20名、最小催行人数10名です。詳しくは、日本ウィクリフ事務局までお問い合わせください。（048-466-3730）

JOMA会長の声

ある韓国の宣教師からこのようなことを聞きました。「韓国では超教派で協力するという考え方はほとんどない。」それぞれの教会や教団が大きく、それぞれでことを進めることができるからだと思います。



その点、日本のキリスト教界は小さな教会・教団・団体の集まりですので、自然と共に関わり働きをしようという意識が与えられることは何と感謝なことでしょうか。JOMAの総会が近づいています。加盟団体が一同に会する貴重なときです。時間を有効に使うために、JOMA活動に関わる提言・ビジョン等がありましたら、前もってメールを事務局にいただけませんか。当日までにメールで協議できることはしておきたいと願っています。さらに日本から世界に向けての宣教を共に協力しつつ進めていきましょう。

JOMA会長：横山基生

☆☆宣教インフォメーション☆☆

カイロスコース（日本語版）のご紹介

カイロスは、ラルフ・ウィンター編集の Perspectives On World Missions コースの改訂版です

日本語版はジーザスファミリーが翻訳し、この教会によってセミナーが開催されています。この他に、簡易版で「モザイク」というプログラムもあります。

※カイロスアウトライン※

- 第1章：神の目的と計画
- 第2章：契約の民、イスラエル（旧約時代）
- 第3章：メシヤ、メッセージとメッセンジャー（新約時代）
- 第4章：世界のクリスチャン・ムーブメントの拡大
- 第5章：宣教の戦略（未伝地の民への適切な戦略の必要と可能性）
- 第6章：残された働き（宣教用語の定義、世界宣教の優先順位）
- 第7章：異文化への理解（文化の理解、教会の文脈化と宣教の働き）
- 第8章：ワールド・クリスチャンのチームワーク

◇お問い合わせ先

教会名：ジーザスファミリー

住所：〒545-0014 大阪市阿倍野区西田辺町 1-2-2

連絡先：TEL:06-6697-3502 FAX:06-6697-3504

JOMA総会

開催のお知らせ

■ 日時：2008年4月15日(火)

午前11時より午後3時半まで

■ 会場：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書教会

東京都豊島区駒込3-15-20

(JR山手線駒込駅下車徒歩10分)

※行き方は、右記地図参照

■ 連絡先：JOMA事務局

担当：坂庭裕子姉

■ プログラム：

午前：宣教セミナー

「世界宣教における日本の教会の位置づけ」

午後：総会議事



JOMA総会に併せて開催！

JOMA宣教セミナー

開催のご案内

■ テーマ：「世界宣教における日本の教会の位置づけ」

～ ローザンヌ会議運動からの提言 ～

■ 講師：正木牧人師

このテーマに最適な講師が与えられました。世界で主がどのように宣教を豊かに推し進めておられるか知りつつ、その中で主が私達に期待されていることを心に留め、共に世界宣教に関わる恵みをいただきませんか。

■ 日時：2008年4月15日(火)午前11時～12時半

■ 会場：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書教会

■ 参加費：無料

※午後からのJOMA総会に出席予定でない方も、どなたでもおいで下さい。

■ 問合せ：JOMA事務局

■ 講師プロフィール：正木牧人(まさき・まきと)

1958年生まれ。1990-92年コンコーディア神学校で神学専門修士号取得、宣教学博士課程にも在籍、1999-2002年コンコーディア神学校で哲学博士課程。アジア・ローザンヌ委員会書記理事。現在、神戸ルーテル神学校教務・準教授と西日本福音ルーテル教会伊丹教会牧師、日本福音主義神学会書記理事、日本福音主義神学会西部部会書記理事、日本宣教会書記理事。

総会・宣教セミナー会場地図



お詫びと訂正

2008年版宣教カレンダーの掲載データに誤りがありました。南米宣教会の三浦宣教師ご家族の名前が「家族：明司、洋平、真生」とありますが、正しくは「家族：明可、洋平、真生」の間違いです。お詫びの上、訂正いたします。

宣教カレンダーの在庫がまだ多数あります。送料実費負担のみで何部でもお送りしています。必要部数と送付先住所をJOMA事務局までお知らせください。宣教師を祈りに覚えるため、教会の皆さんに配られてはいかがでしょうか？

ブラジル



南米宣教会
三浦 春寿・千春
Harutoshi & Chiharu Miura
家族：明可、洋平、真生
マナウス福音教会牧師

発行：海外宣教連絡協力会

発行者：横山 基生

住所：〒244-0842

横浜市栄区飯島町 2441-10

Tel.045-891-7769

Fax.045-894-2121

e-mail: jomaoffice@yahoo.co.jp

ホームページ: www.joma.mydns.jp

郵便振替：海外宣教連絡協力会

00160-7-106631